

令和4年度 第2回南幌町地域包括ケア推進会議
第2回南幌町高齢者虐待防止ネットワーク会議
第2回南幌町認知症初期集中支援チーム検討委員会

日 時 令和4年12月21日(水)
15時30分より
場 所 あいくる 2階会議室

1 開 会

2 会 長 挨 拶

3 協議(報告)事項

(1) 地域包括支援センター業務(令和4年度事業中間報告)について

(2) 地域包括ケア個別会議における活動状況について

(3) 認知症初期集中支援チーム検討委員会活動状況について

(4) 高齢者虐待防止ネットワーク会議活動状況について

(5) 生活支援コーディネーターにおける活動状況について

4 そ の 他

5 閉 会

南幌町地域包括ケア推進会議委員
 南幌町高齢者虐待防止ネットワーク会議委員
 南幌町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

名簿

(委嘱期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日 計15名)

	氏名	区分・所属
会長	三浦航平	学識経験者 医療法人やわらぎ介護老人保健施設ゆう 副施設長
副会長	佐久間竜太	学識経験者 社会福祉法人南幌福祉会 南幌みどり苑 施設長
	加藤久尚	医療関係者 加藤歯科 院長
	棟方智子	医療関係者 町立南幌病院 医長
	大沼笑子	医療関係者 町立南幌病院 看護師長
	島由樹	介護保険サービス事業関係者 社会福祉法人南幌福祉会 南幌みどり苑 業務係長
	山田美幸	介護保険サービス事業関係者 医療法人やわらぎ 居宅介護支援事業所アザレア 管理者
	道辰公人	介護保険サービス事業関係者 グループホーム福音の家 管理者
	藤井弘子	各種関係団体 人権擁護委員
	岡真一	各種関係団体 南幌町社会福祉協議会会長
	林仁	各種関係団体 南幌町民生委員児童委員協議会会長 (12月1日付、改選に伴い新規会長の選任)
	三歩幸光	各種関係団体 南幌町老人クラブ連合会会長
	山上宣好	町民 南幌町区長会会長
	川西美千代	各種関係団体 南幌町ボランティア活動登録者連絡会副会長
	吉田加代子	町民 ボランティア登録者

【事務局：高齢者包括グループ】

職名	氏名	職名	氏名
課長	佐藤由美子	主事	大森悠生
主幹	石川洋子	保健師	池田愛里
主査(保健師)	三浦早苗	生活支援コーディネーター (社会福祉協議会)	梶田しのぶ
主任	舩館峰子		

地域支援事業（4月～10月）

【目的】

地域支援事業は、介護保険法に基づき、被保険者が要介護状態又は要支援状態となることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的とする。

1. 一般介護予防事業

■介護予防・日常生活支援総合事業（一般介護予防事業）

制度改正に伴い、平成29年度に介護予防・日常生活支援総合事業の開始と併せて、引き続き一般介護予防事業として実施した。

高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりと、要支援・要介護状態になっても、生きがい・役割をもって生活できる地域づくりを推進する。

事業名	【介護予防普及啓発事業】快足シャキット倶楽部							
目的	外出の機会を多く持ち、寝たきりの原因となる転倒骨折を予防し、自ら生きがいをみつけ、自立した生活を維持する。							
対象	65歳以上の方							
令和4年度 計画								
日程	あいくる（火曜日・金曜日）月に5～7回 ふれあい館（木曜日）月に3～4回							
場所	あいくる、夕張太ふれあい館							
スタッフ	健康運動指導員、保健福祉課職員							
内容	体操（基礎、筋力アップ）、健康・栄養講話							
令和4年度 中間実績								
実績 ■あいくる	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	中間計
	6回	6回	6回	4回	0回	0回	6回	28回
	113人	108人	102人	62人	0人	0人	111人	496人
1回平均：17.7人／新規10人								
■夕張太	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	中間計
	3回	3回	3回	3回	0回	0回	3回	15回
	29人	28人	34人	30人	0人	0人	42人	163人
1回平均：10.8人／新規5人								

事業名	【介護予防普及啓発事業】男の料理教室							
目的	男性が買い物、料理などの手段的日常生活動作の自立を目指し、さらに運動、趣味の発見の機会とすることをねらいとする。							
対象	概ね65歳以上の男性							
令和4年度 計画								
日程	月1回							
内容	バランスのよい献立、調理の方法、健康講話							
スタッフ	管理栄養士、保健師、保健福祉課職員、ボランティア（各回3～6人）							
令和4年度 中間実績								
実績	0回 ■新型コロナウイルス感染症に伴い、開催の機会が設けられない状況である。							

事業名	【介護予防普及啓発事業】高齢者水中運動教室		
目的	高齢者に対して水中運動を行うことにより、介護の重度化を予防し、自立と生きがいのある生活を助長する。		
対象	65歳以上の方		
令和4年度	計画		
日程	○水曜日コース	5月～9月(全16回)	
	○金曜日コース	5月～9月(全15回)	
場所	南幌町町民プール		
内容	ストレッチ、水中運動		
令和4年度	中間実績		
実績	■水曜日コース ○5月18日～9月21日(全9回) / 登録人数6名(延べ参加人数 34名) ■金曜日コース ○5月20日～9月16日(全10回) / 登録人数7名(延べ参加人数 42名) ★合計 全19回 / 登録実人数13名(延べ参加者76名)		
事業名	地域リハビリテーション活動支援事業		
目的	地域での介護予防・自立支援を促進するため、身近な場所での介護予防の取り組みを支援する。		
対象	単位老人クラブ・カフェサロン等地域で活動する団体		
令和4年度	計画		
内容	地域での元気高齢者の集まりにリハビリ専門職員等を派遣し、介護予防に資する知識の普及や技術への助言、レクリエーションなどを行い、地域での介護予防の取り組みを支援する。		
スタッフ	町内医療機関・介護事業所のリハビリテーション専門職等、保健師		
令和4年度	中間実績		
実績	5回 北町そよ風会 6月6日 老人保健施設ゆう 作業療法士 8区歳鶴会 6月13日 特別養護老人ホーム 作業療法士 社協主催のボランティア養成講座 9月28日 町立南幌病院 理学療法士 介護者のつどい 11月2日 老人保健施設ゆう 作業療法士 14区健老会 11月10日 町立南幌病院 理学療法士		
事業名	【介護予防普及啓発事業】高齢者いきいき健康マーじゃん		
目的	健康マーじゃんを通じて、高齢者の仲間づくり、生きがいづくりを図りいきいきと暮らせる高齢者の健康づくりを目的とする。		
対象	60歳以上の方等		
令和4年度	計画		
日程	4月1日～3月31日の週1回程度開催(木曜日開催) 13時～16時まで(※R4年度から感染予防対策を取りながら1時間延長)		
場所	あいくるホール		
内容	「賭けない、吸わない、飲まない」健康マーじゃん ※社会福祉協議会へ事業委託		
スタッフ	地域のボランティア(講師)		
令和4年度	中間実績		
実績	17回実施(延べ参加人数 308人 / ※1回平均 18人=平均5卓) ※参加登録者人数 117人(男53人/女64人)、講師5人		

事業名	【健康教育・健康相談】							
目的	介護予防、疾病予防に関する正しい知識を普及する。							
対象	単位老人クラブなど							
令和4年度	計画							
内容	介護予防・健康づくりに関する講話 感染症の動向を踏まえ、臨機応変に健康教育を実施する。							
日程	随時							
場所	各地域の会館等							
令和4年度	中間実績							
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	中間計
	3回	1回	5回	3回	1回	2回	0回	15回
	53人	31人	90人	55人	5人	48人	0人	282人
(内訳) 老人クラブ：14回 278人、職員出前講座（南幌高校）：1回 4人 ■講話内容 コロナウイルス感染症予防/熱中症対策について/ヒートショックについて あんしんキットについて/フレイル予防/社会参加の推進/南幌町の高齢者 ※出前講座								

事業名	【地域介護予防活動支援事業】地域づくりサロン運営費（なんぼろカフェサロン）補助金							
目的	地域の自主グループが開催運営する高齢者が気軽に集まることのできる地域づくりサロンの活動に要する経費に対して補助することで、高齢者の生きがいづくりと介護予防を図るとともに、社会的孤立感の解消や地域での支え合い体制を推進する。							
対象	65歳以上の方							
令和4年度	計画							
交付対象	目的の活動を実施しようとするグループ							
場所	地域の会館、公共施設等							
内容	令和2年度より社会福祉協議会へ事業を委託。生活支援コーディネーターと連携をとり、気軽に参加できる集いの場として町民への周知を図っていく。							
その他	■意見交流会の開催：高齢者の見守り等説明、サロン同士の意見交流会							
令和4年度	中間実績							
内容	補助金の交付 ①事業立ち上げ費（初回のみ） 10万円以内 新規立ち上げ 実績なし ②運営費 開催1回につき 1,000円							
その他	意見交流会 未実施（令和5年3月実施予定） 9月までの開催回数↓							
サロン名	①ゆい（シルバー）	平成27年	6月	立ち上げ	開催回数	12回		
	②桜（夕張太）	平成27年	10月	立ち上げ	開催回数	8回		
	③ひまわり（北町）	平成28年	7月	立ち上げ	開催回数	12回		
	④寿（15区）	平成29年	3月	立ち上げ	開催回数	7回		
	⑤西町	平成29年	3月	立ち上げ	開催回数	12回		
	⑦鶴城（冬季のみ）	平成30年	12月	立ち上げ	開催回数	1回		
	⑧スマイル（14区）	令和2年	7月	立ち上げ	開催回数	10回		

事業名	【介護予防普及啓発事業】ふまねっと運動		
目的	歩行機能の改善やバランス機能の向上、さらに認知機能の低下を防ぐことを目的に、高齢者の集いの場を利用して実施をすることにより転倒予防に繋げる。		
対象	65歳以上の方		
令和4年度 計画			
内容	令和2年度より老人会やカフェサロンの集まりの場において実施している。約50cm四方のマス目でできた大きな「あみ」を床に敷き、その「あみ」を踏まないように、ゆっくり慎重に歩く運動で、間違いに気づくことによりバランスと認知機能の改善効果が得られます。 令和4年度からは、月2回自主練習教室を開催し、各地域の集まりなどでふまねっとサポーターが指導者として指導を行っています。		
スタッフ	生活支援コーディネーター及びふまねっとサポーター		
場所	老人会やカフェサロン		
令和4年度 中間実績			
実績	高齢者運動促進事業	4回	延べ参加者数 69名
	自主練習教室	7回	延べ参加者数 60名

事業名	【地域介護予防活動支援事業】介護支援ボランティアポイント事業		
目的	ボランティア活動を通じて、社会参加や社会貢献を促進し、住民自身の健康増進及び介護予防を推進する。		
対象	40歳以上の要介護・要支援認定を受けていない方		
令和4年度 計画			
内容	事業登録者へポイント手帳を交付。(※社会福祉協議会へ事業委託) 町・社会福祉協議会・介護保険施設でのボランティア活動に対し、ポイントを付与、貯まったポイントは翌年4月に商工会の商品券に還元することができる。 今年度はボランティア養成講座の開催。 ボランティア活動意向調査を南幌町ボランティア活動登録者連絡会に実施する他、住民向けボランティアニーズ調査を実施予定。		
その他	ボランティア養成講座の開催、養成講座開催においては既存のボランティア団体の協力をを行う。またボランティア活動意向調査、住民向けボランティアニーズ調査の実施		
令和4年度 中間実績			
登録者数	90名（令和4年10月末に登録者名簿の整理を行ったため、登録者数の減少がみられる）		
商品券引換	令和4年4月交換（令和3年度実施におけるボランティアポイントの商品券引換分） 65歳以上 46名 75,000円分（昨年度 37名 42,000円） 64歳以下 1名 1,000円分（昨年度 1名 1,000円） 計 76,000円分		
その他	交流会 未実施（令和5年2月に実施予定） ボランティア養成講座やボランティアフェスタを開催し、既存のボランティア活動を住民に周知するとともに活動団体への会員促進と登録者数の増加を目指しました。		

2. 介護予防・生活支援サービス事業

■介護予防・日常生活支援総合事業（介護予防・生活支援サービス事業）

平成29年度から介護予防・日常生活支援総合事業を開始し、従来の訪問介護（ホームヘルプサービス）、通所介護（デイサービス）を介護予防・生活支援サービス事業として実施した。

地域の実情に応じて、住民等多様な主体が参画し、多様なサービスを充実させることにより、地域の支え合い体制づくりを推進していく。

事業名	介護予防・生活支援サービス事業
目的	地域の実情に応じて、住民等多様な主体が参画し、多様なサービスを充実させることにより、地域の支え合い体制づくりを推進し、要支援者等に対する効果的かつ効率的な支援を行う。
対象	要支援認定の方・チェックリスト実施対象の方
令和4年度 計画	
内容	<p>介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者事業団へ委託する住民主体の訪問型サービスの実施・支援 ・新たな多様なサービス実施への検討
令和4年度 中間実績	
内容	<p>①介護予防・日常生活支援総合事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■サービス事業者の指定 <ul style="list-style-type: none"> <訪問型サービス> <ul style="list-style-type: none"> 事業所数 6事業所 <通所型サービス> <ul style="list-style-type: none"> 事業所数 3事業所 ■サービスの実施 <ul style="list-style-type: none"> <訪問型サービス（住民主体のサービス）> <ul style="list-style-type: none"> ○南幌町高齢者事業団 【サービスの内容】～清掃（室内・トイレ・浴室）、洗濯、ゴミ処理 利用者 1名（要支援2の方）

3. 包括的支援事業

地域のケアマネジメントを総合的に行うために、介護予防ケアマネジメント、総合相談や支援、権利擁護事業、ケアマネジメント支援を実施する。

<包括的支援事業（地域包括支援センターの運営）>

事業名	家庭訪問
対象	65歳以上の方
令和4年度 計画	
内容	訪問により、要介護認定を受け必要なサービス利用に至っていない方の支援や支援困難事例など介護支援専門員の後方支援としての訪問活動を行う。令和2年度から実施している、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に関する取り組みを継続する。KDBデータを利用し、生活習慣病等の重症化予防に関わる相談・指導、健康状態が不明な高齢者の実態把握、必要なサービスへの接続等の支援を行う。
令和4年度 中間実績	
実績	188件（新139件、再49件）

事業名	総合相談窓口
対象	65歳以上の方やその家族等
令和4年度 計画	
内容	サービスに関する情報提供等の初期相談対応や、継続的・専門的な相談支援（様々なサービス等の利用へのつなぎ）を実施する。また、民生委員児童委員、人権擁護員、老人クラブ会長を在宅高齢者相談協力員として委嘱し、地域で広く高齢者の相談に応じる体制を整備し、連携を図る。
令和4年度 中間実績	
実績	電話：300件／来所：160件／その他：2件

事業名	高齢者虐待防止ネットワーク事業
根拠・通知	介護保険法、高齢者虐待防止法
目的	高齢者虐待の予防・早期発見・早期対応・再発防止を図り、高齢者の平穏な生活を確保する。
令和4年度 計画	
内容	関係機関との連携を密にすることで今後も迅速な対応に努める。
令和4年度 中間実績	
実績	高齢者虐待取扱い件数 0件 町内関係者及び町民への高齢者虐待防止周知・普及

事業名	地域包括ケア推進会議
目的	住み慣れた地域で自分らしく生活できるために、介護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を推進するために開催する。
令和4年度 計画	
内容	<p>高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた保険者の取組が制度化され評価指標が示されており、本会議によって、地域包括支援センター業務や体制等の課題の明確化および改善に向けての検討を図り、機能強化に努めていく。</p> <p>①地域支援事業や高齢者福祉事業の推進及び支援 ②地域包括支援センターの運営・評価 ③高齢者虐待に関する実施評価について ④地域密着型サービス事業の運営、効果的な支援の評価</p>
令和4年度 中間実績	
日程	第1回目開催日：6月29日（水）実施 委員15名参加
場所	あいくる

事業名	地域ケア個別会議
対象	様々な課題を抱えた高齢者
令和4年度 計画	
内容	<p>さまざまな課題を抱えて生活する支援困難事例が増えており、会議を通じた地域の資源の利活用や他職種の協働により、自立した日常生活を営めるよう支援を行う。本会議の機能を発揮することおよび町全体の介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指して自立支援型地域ケア会議を実施していく。</p>
令和4年度 中間実績	
①地域ケア個別会議の実施	
内容	支援困難高齢者に対して課題を解決するため、地域や多職種の協働により個別の支援内容の検討を行う。
会議ケース	1件
②自立支援型地域ケア個別会議の実施	
内容	高齢者の自立支援と重度化防止に向けて、従来からの医療と介護の連携素地を有効活用し、多職種での検討によるケアマネジメントの支援を行う。
会議ケース	3件

事業名	在宅医療・介護連携推進事業
目的	高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する。
令和4年度 計画	
内容	①連携会議の定例実施 保健福祉医療サービス調整推進会議・保健福祉医療連絡会議 ②地域での連携を推進するために、学習テーマを設けて研修会を開催する。 ③医療・介護連携を円滑に進めるためのツールやICT化の検討
令和4年度 中間実績	
実績	連携会議の定例実施 保健福祉医療サービス調整推進会議 6回実施 うち3回は自立支援型地域ケア個別会議として実施 保健福祉医療連絡会議 感染拡大予防のため中止

事業名	生活支援体制整備事業
目的	生活支援サービスを担う事業主体と連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図る。
令和4年度 計画	
内容	令和2年度より社会福祉協議会へ事業を委託しており、引続き連携を図り住民の活動の場に赴き、住民とともに地域づくりを念頭に置いた活動の推進を図っていく。
令和4年度 中間実績	
実績	コロナウイルス感染症に伴い、訪問活動の自粛を余儀なくされていた時期もあったが、生活支援コーディネーターが地域へ赴き、地域での活動や課題の把握に努め、地域づくりの担い手となるボランティア育成や活動の場づくりなど持続的に活動を行っている。

事業名	【認知症総合支援事業①】 認知症初期集中支援推進事業
目的	認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるために、効果的な支援が行われる体制を構築する。
令和4年度 計画	
内容	<p>①認知症初期集中支援チームでの支援</p> <p>②複数の専門職で、認知症が疑われる人、認知症の人とその家族に対し、初期の支援を包括的・集中的に行い支援する。</p> <p>③チーム員会議 月1回開催予定</p> <p>④認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 年2回</p>
令和4年度 中間実績	
実績	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム 対象者：5件（前年度からの継続1件） 認知症が疑われ、介護・医療サービスを受けていない、または中断している方。 サービスを受けているが症状が顕著で対応に苦慮している方。 認知症サポート医：ポロナイクリニック 高塚直裕精神科医師 チーム員：保健師2名、介護福祉士1名 チーム員会議：7回開催 認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催 1回 ※地域包括ケア推進会議と同時開催

事業名	【認知症総合支援事業②】 認知症地域支援・ケア向上事業
目的	認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるために、効果的な支援が行われる体制を構築する。
令和4年度 計画	
内容	<p>地域の実態に応じた認知症施策の推進にむけ研修等参加し学びを深める。</p> <p>また、医療機関や介護サービス等地域の支援機関との連携を図り、認知症の方やその家族を支援していく。</p> <p>チームオレンジの立ち上げに向け、地域のニーズ・マンパワー等課題や目的を整理し、関係者や住民と検討し、計画化していく。</p>
令和4年度 中間実績	
実績	<p>認知症地域支援推進員の配置 3名配置：社会福祉士、保健師、介護福祉士 医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の連携を図るための支援や、認知症の方やその家族を支援する相談業務を行った。次年度の活動に向けて打ち合わせを行った。</p>

4. 任意事業

地域の高齢者が、住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるようにするため、地域の実情に応じた必要な支援を行うことを目的とする。

事業名	介護給付費等費用適正化事業
目的	利用者に適切なサービス提供とケアプラン作成の向上を図り介護給付費の適正化につなげる。
令和4年度 計画	
内容	町の介護給付の動向を把握した上で、居宅介護支援事業所の介護支援専門員とケア計画やサービス提供状況など情報交換や計画とサービス内容の検討を行う。 また、医療給付情報突合リストの確認も引き続き行う。
令和4年度 中間実績	
実績	令和5年2月頃実施予定
参考	令和4年3月実施 居宅介護支援事業所アザレアにおけるケアプランを点検 新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、対面実施から書面提出とし、令和3年度も実施。

事業名	【家族介護支援事業】介護者のつどい
目的	介護者が高齢者に関する正しい知識を得ることができ、介護者同士が交流することにより心身のリフレッシュを図る。
対象	要介護者を介護する家族等
令和4年度 計画	
内容	年6回行う。適切な介護知識の習得、サービス利用に向けての情報提供、介護者同士の情報交換や交流を行う。11月には交流を深めることができる内容を実施する。 新規認定結果にお知らせ文章を同封し新規参加者の勧奨を行う。
令和4年度 中間実績	
実績	2回 延べ参加者数4名 実人数4名

事業名	【家族介護支援事業】認知症高齢者見守り事業
目的	認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進を図る。
令和4年度 計画	
内容	<p>認知症に関する正しい知識の普及・啓発、地域全体で見守りをすすめる認知症サポーターの養成等を行っていく。</p> <p><認知症サポーター養成講座> 認知症の正しい理解のためサポーター養成講座の実施</p> <p><認知症高齢者等SOSネットワーク事業> 所在不明となった認知症高齢者を関係機関の連携で速やかな発見・保護とその後の予防、登録を行い、見守りを整備する。</p> <p><安全安心見守りネットワーク事業> 高齢者や障害者、子供の見守りを必要とする方を町と民間事業所等が連携し、異変を早期派遣し必要な援助をし、住み慣れた地域で安全安心に生活できるようにする。</p> <p><認知症高齢者等見守り機器貸与支援事業> 徘徊行動のみられる（または恐れのある）認知症高齢者等やご家族にGPS端末機※を貸与し、安心な生活を支援する。（SOSネットワークへの登録必須） ※パソコンや携帯電話から位置情報を確認できる。</p>
令和4年度 中間実績	
実績	<p>■認知症サポーター養成講座 1回実施 9月28日 ボランティア入門講座 14名 12月 2回実施予定</p> <p>■安全安心見守りネットワーク登録事業者 13社</p> <p>■認知症高齢者等見守り機器貸与支援事業 GPS貸出し件数8件 ※新規3件 返還1件</p>

事業名	【地域自立生活支援事業】配食サービス
目的	高齢者の地域における自立した生活を継続できるよう推進するための事業を実施する。
対象	低栄養や認知症、退院時の虚弱等の理由により食事の支度が困難な65歳以上の独居・高齢者夫婦世帯。
令和4年度 計画	
内容	管理栄養士のアセスメントにより配食サービスを実施する。 また、自立を促進するために管理栄養士による訪問を実施する。 申請受理時、定期的に管理栄養士による食のアセスメントを行っていく。
令和4年度 中間実績	
実績	延べ利用者数：191人 ※10月利用の実人数27人 食数：延べ 3,892食

事業名	【地域自立支援支援事業】シルバーハウジング生活援助員配置事業
対象	道営シルバーハウジングに居住している高齢者
令和4年度 計画	
内容	生活援助員を派遣して生活指導・相談・安否確認、一時的な家事援助、緊急時の対応等のサービスを提供し、入居者が自立し、安全かつ快適な生活を営むことができるよう在宅生活を支援する。また、集会場で実施する介護予防事業にも参加協力し、入居者が事業に参加しやすい環境づくりを進める。引き続き生活援助員の派遣を継続していく。
令和4年度 中間実績	
実績	入居者20世帯の在宅生活の支援を行う。 ■生活相談：延べ102件（健康相談、介護サービス相談、日常生活相談、その他） ■生活援助：延べ101件（身の世話、ゴミ回収、服薬確認、体調不良対応、その他）

高齡者福祉事業

＜高齡者在宅支援事業＞

事業名	あんしんキット見守り事業
根拠・通知	事業実施要領（町単独）
目的	かかりつけ医や服薬の内容、緊急連絡先を記入し容器に入れ冷蔵庫に保管することにより、緊急時、本人が話せない状態であっても救急隊員、医療従事者等に必要な情報伝達と迅速な対応を図り、人命の安全を確保する。
対象	65歳以上の単身世帯、高齡者夫婦世帯、その他世帯（高齡者のみの世帯等） ※4月1日現在で、新たに65歳になった方を訪問 ※転入された世帯やこれまでの未設置世帯（70歳・75歳到達者）
令和4年度 計画	
内容	新規対象者に訪問により「あんしんキット」を配布する。 既設置者に訪問・電話等により情報用紙内容確認・修正の周知をする。
令和4年度 中間実績	
実績	配布者数33人／用紙回収33人／更新100人 全体配布数1,114人（うち75歳以上714人） ※あんしんキットの数値については、12月9日現在の数値

事業名	福祉用具相談・福祉用具レンタル事業
根拠・通知	なし（町単独）
対象	介護保険適用外の高齡者、又は要介護認定者で、一時的な退院等で福祉用具を必要とする者など
令和4年度 計画	
内容	退院に向けての在宅生活への移行のための外泊期間中に自立を支援するための福祉用具一時的な貸し出しを実施する。 介護給付が始まる前の方や介護保険サービスで対応できない方へ必要時貸し出しを行う。
令和4年度 中間実績	
実績	11件 歩行車2件、杖0件、四点杖0件、歩行器2件、シャワーチェア3件、ポータブルトイレ2件、バスグリップ2件

事業名	緊急通報装置設置事業
根拠・通知	事業実施要綱（町単独） ※ふるさと応援寄付金活用事業
対象	①75歳以上の1人暮らしの方 ②おおむね65歳以上の1人暮らしの方で、健康状態、身体状況又は日常生活動作に支障がある方 ③65歳以上の高齢者夫婦のみの世帯で、次のいずれかに該当する方がいる世帯（ア 重度障がい者、イ 要介護3以上の認定者）
令和4年度 計画	
内容	緊急通報装置（端末機、ペンダント式発信機）の無償貸与。 （★利用者負担：発信に係る通話料） サーバーの耐用年数を考慮し、機種変更を含め今後検討を行う。
令和4年度 中間実績	
実績	■設置台数 89件 【内訳】①シルバーハウジング 20件 ②一般住宅 69件（新規設置1件） ■撤去件数 8件（転居2件、利用辞退（入院等）4件、死亡2件）

事業名	高齢者等住宅屋根雪下ろし助成事業
根拠・通知	事業実施要綱（町単独） ※ふるさと応援寄付金活用事業
対象	町内に住所を有し、一戸建て住宅（借家を含む。）に居住する世帯全員の町民税が非課税で、次のいずれかに該当する世帯 ①65歳以上の高齢者のみの世帯 ②障がい者が属する世帯（身体障害者手帳1級及び2級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級と判定された者） ③ひとり親世帯（18歳以下の子とで構成する世帯）
令和4年度 計画	
内容	1回の雪下ろしに要した費用の3分の2の額に対し、3万円を上限とし、助成対象期間（1月～3月）に2回まで助成する。 住民に周知し事業を行っていく。
令和4年度 中間実績	
実績	広報11月号にて周知し受付開始の為、未実施。
参考	令和3年度利用者 6名 10回実施

事業名	除雪サービス事業								
根拠・通知	事業実施要綱（町単独） ※ふるさと応援寄付金活用事業								
対象	<p>身体状況等の理由により、自力除雪が困難な下記の世帯</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 70歳以上の方のみの世帯 2. 要介護1から要介護5までの認定を受けた方のみの世帯 3. 重度身体障がいを持った方のみの世帯 4. 精神障がいを持った方のみの世帯 5. 知的障がいを持った方のみの世帯 6. 上記に掲げる方のみの世帯 7. シルバーハウジングに入居している世帯 								
令和4年度 計画									
内容	<p>【除雪範囲】①公道から住宅まで（おおむね距離10m、幅1.2m程度）の除雪（※人力、又は除雪機による除雪）</p> <p>②公道除雪が終えた後の自宅間口に残る雪の除雪（※除雪作業車による除雪）</p> <p>【利用料金】1シーズン（公道除雪期間：12月1日～3月31日）下記の金額</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>①課税世帯</td> <td>：6,000円</td> </tr> <tr> <td>②課税世帯（均等割のみ）</td> <td>：5,000円</td> </tr> <tr> <td>③非課税世帯</td> <td>：4,000円</td> </tr> <tr> <td>④シルバーハウジング入居世帯</td> <td>：1,000円</td> </tr> </table>	①課税世帯	：6,000円	②課税世帯（均等割のみ）	：5,000円	③非課税世帯	：4,000円	④シルバーハウジング入居世帯	：1,000円
①課税世帯	：6,000円								
②課税世帯（均等割のみ）	：5,000円								
③非課税世帯	：4,000円								
④シルバーハウジング入居世帯	：1,000円								
令和4年度 中間実績									
実績	令和4年10月1日より受付開始の為、未実施。								
参考	<p>令和3年度の利用件数100件（新規13件／継続87件）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①公道から住宅までの除雪41件（高齢者事業団による除雪） ②自宅間口の除雪54件（南幌道路維持事業組合による除雪） ③農家地区5件（法人による除雪） 								

令和4年度 地域ケア個別会議からみえてきた地域課題 個別事例の検討 4件

	支援困難事例	自立支援に向けた検討事例	自立支援に向けた検討事例	自立支援に向けた検討事例
対象者	Aさん 85歳 要介護1 女性独居	Bさん 72歳 要支援1 男性独居 市街地在住	Cさん 79歳 要支援2 男性独居 市街地在住	Dさん 86歳 要支援2 女性独居 市街地在住
主な課題	■認知症による理解低下がみられる独居高齢者 ■金銭管理での支援	■妻が長期入院を要しているための独居生活の今後と支援	■病気があり外出が困難になってきている独居の生活支援	■病気により活動量減少し、体力・筋力低下のみられる独居高齢者の生活支援
個別会議での検討	理解の低下と物忘れの進行により金銭面の管理ができておらず生活費の流れが不透明な状態であることがわかり支援策について検討した。	もともと自由で干渉を嫌うが、一方で人を頼り依存する傾向のある1人暮らし高齢者の生活をいかに支えていくのかを検討した。	必要な外出ができて生活が不活発にならないように独居生活を続けるにはどう支援するとよいのかを検討した。	1人暮らしだが隣近所とのつながりは持っている方。地域での支えを受けて生活できる方法を検討した。
対応・事後	家族と本人とで、まずお金の流れをはっきりとする必要性がみえてきた。その後、金銭管理や権利擁護について方策を検討をと関係者間で現状の確認と課題の共通認識を図ることができた。	事例検討の結果、本人の性格により、介護事業者のみならず、町内の商店や近所含め、たくさんの見守りや支援をうけて生活している人物像が見え共通認識できた。	外出に目的をもち、今以上に外出したいと望むのであれば、外出が楽に行えるようなサービスの導入を提案する。	近所での見守りはあるが、困ったときにすぐ連絡がとれたりSOSを出せる方法として南幌町で利用できる方策を共通認識できた。



個別事例の検討より明らかになった地域課題

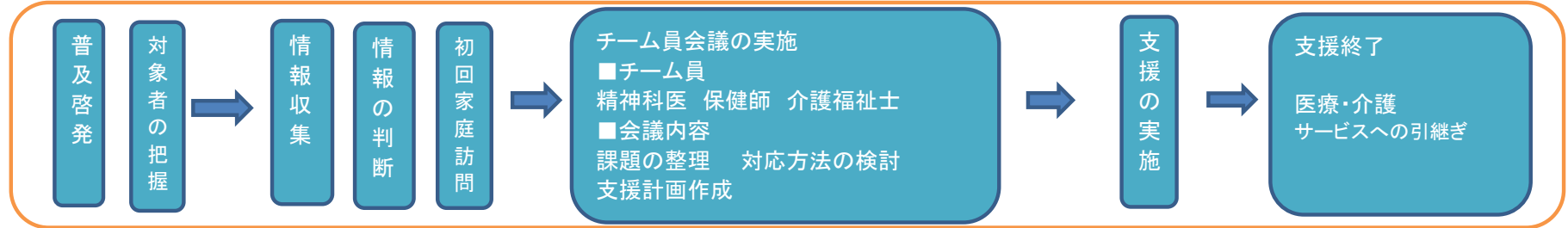
- ① 支援困難事例として検討した1事例は、夫を亡くした後1人で生活しているが、金銭面の管理に問題を抱えた高齢者の生活支援についての検討であった。会議によって、問題が整理され、今後の役割も明確化された。今回のような事例は今後も増えるものと思われる。
- ② 自立支援を検討した3事例は、市街地で独居生活という方々が住み慣れた家でいかにその方らしく生活していくのか、在宅での生活を支える上での地域での支援について深めることができた。検討により地域での見守りにより90歳を超えても住み慣れた我が家で生活する高齢者は増えていく中で、今後も明確になってくるだろう地域課題は多々あることが予想される。

令和4年度認知症初期集中支援チーム 活動中間実績

対応件数実5件(前年度からの継続1件)延べ5件

チーム員会議開催数

7回



17

	支援対象者の状況				認知症の診断		対象者の把握経路	支援開始時		本人の状況(上段) 主な支援(下段)	支援開始後		
	年齢	世帯状況	介護度	認知症自立度※1	専門医の受診	病名※2		医療の有無	介護サービスの利用		医療の有無	介護サービスの利用	
①	89歳	男	息子と3人暮らし	介護1	Ⅱa	あり	①	来所相談を受けた保健師より	あり(内科)	なし	適切な服薬・受診行動がとれていなかった夫婦ともに病気の理解ができておらず、体調も悪い。訪問系の医療サービスから始めてみたが拒否あり通院に戻しての受療となった。	あり(内科)	なし
②	86歳	女	息子と3人暮らし	要支援2	Ⅱa	(中断)							
③	92歳	女	息子夫婦との3人暮らし	要介護1	I	あり	②	家族からの相談	あり(内科)	なし	生活には困っていないが少しずつわからないことが増えてきている。在宅生活がまだ可能なケースと考えられたが、息子の「親を嫌いにならないうちに離れて暮らしたい。」とで施設入所となってしまった。	あり(内科)	あり
④	82歳	女	独居	未申請	自立	なし		本人からの相談	あり(専門医)	なし	すでに通院しているが不安が強い。精神科に通院しているが病気の受け止めができず、不安の訴えが強い。家族との関係も悪くなってしまっている。	あり(専門医)	
⑤	86歳	女	息子夫婦との3人暮らし	申請中	Ⅱb	あり	③	息子からの相談	あり(内科)	なし	意欲低下と物忘れがみられてきている。相談内容により専門医受診を勧めその受診に同行した。医師の説明をわかるように家族に伝え理解を深めていただいた。認定後通所サービスにつなげていく。	あり(専門医)	なし

※1 認知症高齢者の日常生活自立度 ランクは6段階に分かれます。(自立・Ⅰ・Ⅱab・Ⅲab・Ⅳ・Ⅴ)

※2 病名 ①アルツハイマー病 ②レビー小体型認知症 ③混合型(アルツハイマー型+脳血管性型) ④前頭側頭型認知症